

根塚整形外科・スポーツクリニックの病床設置について

根塚整形外科・スポーツクリニック

院長 根塚 武

(根塚整形外科・スポーツクリニックの目指すもの)

根塚整形外科・スポーツクリニック（以降、当クリニックと略す）では整形外科専門医である院長を中心に診療が行われており、運動器により痛みや機能障害を少しでも減らし、「健康寿命」を「平均寿命」に近づけることがその使命の一つだと考えている。

平均寿命が80歳を超える長寿社会において、運動器の健康と維持は社会において大変重要な課題であり、少しでも地域の皆さんが自分の足で歩き、行動し、生きがいを持てる人生にさせていただきたいと願っている。身体を動かすこと、痛みが少ない身体を動かすことは人間にとって大きな喜びであり、これに対し最大のお手伝いをできるのが、整形外科であり、身体を動かすことの最大の喜びを感じることがスポーツの本質だと考えられる。50歳以降は一般ではシニア世代と言われている。当クリニックでの疾患別割合で見ると、『骨粗鬆症』『変形性関節症』は上位に占めており、高齢者特有のこれら疾患に対しても保存療法を地道に行っている。50歳以降の患者割合は平成28年では34.4%、29年で35.9%、平成30年で39.1%、令和元年で40.7%となっており、年々増加傾向にある（別紙1参照）。また、このことは当クリニックの理念が地域の皆さま方に少しずつでも伝わっているものと考えられる。

(富山医療圏の現状と当クリニックについて)

1. 現在の患者の状況と連携先の位置関係（別紙1、別紙2、別紙3参照）

院長が日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、日本臨床スポーツ医学会代議員であることから、競技者の割合が多い10～19歳の割合が非常に多くなっているのは事実である。しかし、一方前述の50歳以降の割合は34.4～39.1%となっており、年々増加傾向にある。主には保存療法が基本である整形外科診療を行なっているが、その際には当然、専門的な手術加療を必要とする症例もあることから、平成30年/令和元年には富山赤十字病院に113/88例、富山大学附属病院には37/37例の紹介を行なっており、多くは紹介先医療機関で紹介先担当医による入院加療と手術加療を行っている。

無床診療所である当クリニックが有床診療所となり病床設置を行うことで、整形外科関連疾患で入院や手術を要する症例への診療を当クリニック開設である平成27年10月以降継続して行なっていることから、富山医療圏の中で、医療法第30条の7第2項第2号に掲げられている地域包括ケアシステムを推進する上で必要となる、「急変時の入院の受け入れ機能」「患者からの電話等による問い合わせに対し、常時対応できる機能」、「他の急性期医療を担う病院の一般病棟から受入れを行う機能」、「病院から

の早期退院患者の在宅・介護施設への受渡機能」を十分に担えるものと判断している。また、その他「在宅支援診療所の機能（訪問診療の実施）」、「当該診療所における看取りを行う機能」についても、現状地域からのニーズを感じており、今後推し進めていけるものと考えている。

2. 入院機能の必要性

整形外科診療において、各種検査には神経根造影や脊髄腔造影検査等がある。これまでは当クリニックでは実施していないものの、必要であったケースが多々ある。その際には、非常に多忙である紹介先である富山赤十字病院や富山大学附属病院に負担を強いていると実感している。これらは短期入院で行うべき検査であり、少ない病床でも当クリニックに入院機能があれば実施できていると思っている。これまでのデータからもっとも連携が強い紹介先は富山赤十字病院である（資料2参照）。当クリニックから富山赤十字病院までは車で10分以内のアクセスであるだけでなく、整形外科医師間の繋がりで、電話等の連絡で十分にコミュニケーションが取れ、患者さんのためにスムーズな対応ができてはいると考えている。

しかし、一方緊急性が非常に高いケースは止むを得ないが、転医に1～2日間の猶予があつて然るべき場合には紹介先の医療者や患者家族に大きな負担を強いているケースが多々ある。その際にも病床の必要性を実感してきた。

また、医療法第30条の7第2項第2号に掲げられている地域包括ケアシステムを推進する上で必要となる、「年間30例以上の全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔又は伝達麻酔での手術実施」（別紙5参照）は、当クリニック開設の平成27年10月以来も他医療機関での手術を継続して行なっており、その機能を担えると判断している。

3. 今後の入院体制の維持

医師複数名の増員と看護師（夜勤含め）の増員を予定している。病床設置以降には院長以外にも常勤医ならびに非常勤医の増員を見込んでいる。正式には病床設置以降に公に応募する予定である。

また、当直や緊急コールに対応できる体制を整える予定である（別紙10）。

4. 近隣医療施設との関連（別紙6、7、8、9参照）

近隣の医療施設（介護老人保健施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、指定訪問看護事務所）には別紙の施設があり、今後は連携を取りながら、地域包括ケアシステムの推進していく予定である。

5. 将来的に見込める機能

今後の患者構成の方向性としては、これまでの基本方針や当クリニックの理念の則った形を継続していきたい（別紙1参照）。地域の方々に少しずつ浸透しており、前述のシニア年代層が増加しているという事実から最終目標である、健康寿命を平均寿命（生命

寿命) に近づけ、いわゆる寝たきり期間を限りなく少なくなる努力を当クリニックとして継続していきたいと考えている。

※付記 1 (手術関連について)

麻酔、手術については、根塚整形外科・スポーツクリニック (以下、当クリニック) と関連の有床診療所や関連病院などで行なっている。

院長根塚武がクリニック開設以前に勤務していた黒部市民病院や学外講師 (診療指導医) を務める富山大学整形外科 (富山大学附属病院) などで行なった。

<http://www.med.u-toyama.ac.jp/ortho/ortho/staff.html>

診療指導医の立場で、富山大学整形外科関連病院での診療手術指導や手術依頼を受けている。

当クリニックでは日帰り手術を有床診療所や病院では手術後の入院診療を行なっている。

医療法第 30 条第 2 項第 2 号に掲げる医療の推進のための条件に当てはまると考えている。

※付記 2 (訪問診療の実施について)

訪問診療については、平成 28 年 10 月に 1 件実施した。65 歳女性、進行性筋ジストロフィーで自宅療養・人工呼吸器で近くの内科医師による訪問診療先であった。拘縮予防のリハビリをしていた際にアキレス腱断裂が生じている可能性を指摘され、依頼を受け訪問診療を行なった。視診、触診にてアキレス腱断裂を確認した。処置としては特に行わず、今後の経過観察とした。

その後、訪問診療に関しての電話での問い合わせとしては、自宅で転倒したため、大腿骨頸部骨折の疑いや胸腰椎圧迫骨折の疑い、あるいは前腕骨骨折を疑わせるような内容の問い合わせを経験したが、その後の搬送等含めると診療上レントゲンでの確定診断が必要なため、救急車や介護タクシーまたは家人の搬送によりクリニックまで来てもらい、レントゲンなどでの診断ののち、入院加療が必要な際には近くの富山赤十字病院を中心に搬送を行なった。

今後、有床となった際には、当クリニックでの入院が可能となるため、訪問診療については実施するニーズが高まると考えている。

(病床設置のスケジュールについて)

決定通知 (医療審議会の意見に基づき、病床設置届出診療所に該当と決定なされた際)

↓ <工事・病床設置>

↓ <内部環境整備> 合計 1~4 ヶ月を要する見込み

病床設置開始、その後 10 日以内に提出

以上のごとくスケジュールを見込んでいる。

以上

別紙1

来院患者 年代別割合 根塚整形外科・スポーツクリニック

		0-9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
平成28年 1-12月	割合(%)	2.2	30.3	7.4	9.2	15.0	12.0	9.5	9.5	3.4
	実数	119	1659	407	501	823	655	520	520	188
平成29年 1-12月	割合(%)	3.3	29.0	8.2	8.9	14.7	13.3	10.6	8.6	3.4
	実数	256	2249	639	690	1138	1028	818	666	265
平成30年 1-12月	割合(%)	3.7	26.4	7.7	8.5	14.5	14.3	11.6	9.8	3.4
	実数	328	2327	682	747	1282	1265	1025	864	301
平成31年 1月～令和元年12月	割合(%)	3.3	26.0	7.3	7.9	14.8	14.7	11.2	10.9	4.1
	実数	306	2404	677	735	1365	1361	1032	990	375

別紙2

平成28年1月～12月		平成29年1月～12月		平成30年1月～12月		平成31年1月～令和元年12月	
病名	ICD-10	病名	ICD-10	病名	ICD-10	病名	ICD-10
1 変形性膝関節症	M179	変形性膝関節症	M179	骨粗鬆症	M8199	骨粗鬆症	M8199
2 骨粗鬆症	M8199	骨粗鬆症	M8199	変形性膝関節症	M179	変形性膝関節症	M179
3 腰部脊柱管狭窄症	M4806	腰部脊柱管狭窄症	M4806	肩関節損傷	S460	腰部脊柱管狭窄症	M4806
4 上腕骨外側上顆炎	M7712	上腕骨外側上顆炎	M7712	腰部脊柱管狭窄症	M4806	肩関節損傷	S460
5 腰椎椎間板ヘルニア	M512	肩関節損傷	S460	腰椎椎間板ヘルニア	M512	腰椎椎間板ヘルニア	M512
6 膝半月損傷	M2399	腰椎椎間板ヘルニア	M512	神経障害性疼痛	G98 R521	神経障害性疼痛	G98 R521
7 肩関節周囲炎	M750	神経障害性疼痛	G98 R521	変形性股関節症	M169	変形性股関節症	M169
8 腰椎分離症	M4306	膝半月損傷	M2399	膝半月損傷	M2399	膝半月損傷	M2399
9 神経障害性疼痛	G98 R521	変形性股関節症	M169	腰椎分離症	M4306	腰椎分離症	M4306
10 変形性股関節症	M169	頸椎症	M4782	頸椎椎間板ヘルニア	M502	頸椎椎間板ヘルニア	M502

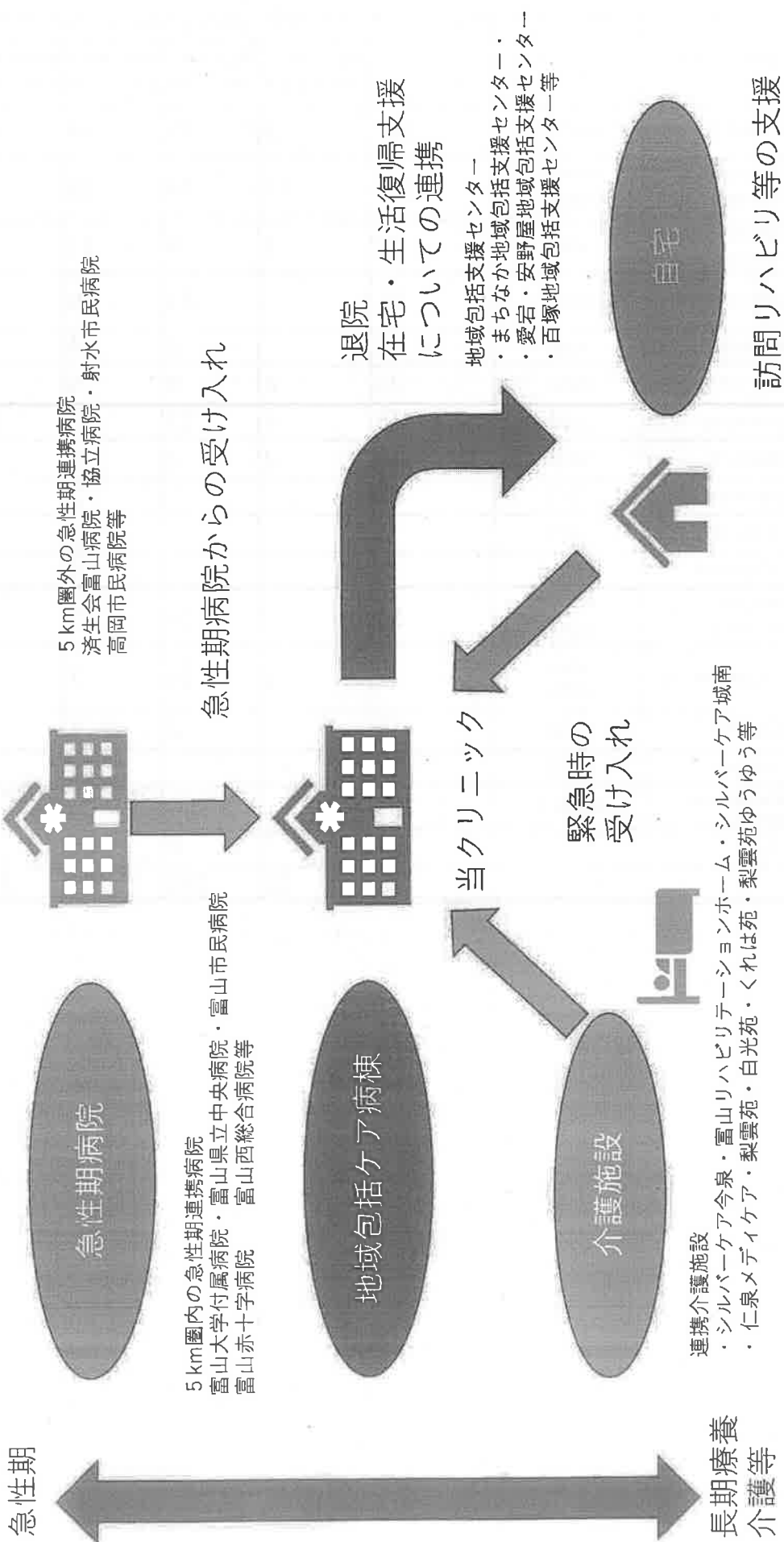
別紙 3

紹介先医療機関（根塚整形外科・スポーツクリニック）

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
富山赤十字病院	41	79	113	88
富山大学附属病院	20	31	37	37
富山県立中央病院	8	9	28	21
黒部市民病院	26	29	23	21
高岡市民病院	83	69	2	2
富山市民病院	11	6	8	1
済生会富山病院	3	5	7	6
済生会高岡病院	2	5	5	4
その他	15	21	2	45

地域包括ケア病棟のイメージ

別紙4



別紙 5

手術術式	コード	延べ数	平成27年10月～令和元年12月				
			平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年1月～
			10月～12月	1月～12月	1月～12月	1月～12月	令和元年1～12月
関節鏡下十字靭帯形成手術	K079-2	147	8	45	49	45	54
関節鏡下半月切除手術 関節鏡下半月縫合手術	K068-2 K069-3	188	17	74	65	32	81
関節鏡下関節唇形成手術 関節鏡下肩腱板断裂手術	K080	28	1	9	11	7	7
関節鏡下関節鼠摘出手術	K067-2	61		23	19	19	24
人工関節置換手術	K082	13		6	4	3	1
骨切り手術	K054	23	2	8	5	8	14
骨内異物除去術	K048	45	4	13	8	20	25
骨折観血の手術	K046	13	2	7	3	1	6
関節脱臼観血の制動術	K077	5			2	3	
非観血の関節授動術	K075	4			2	2	4
アキレス腱断裂手術	K037-2	6		1	4	1	2
腱鞘切開術 手根管開放手術	K028 K093	50		16	21	13	28
皮膚、皮下、腫瘍腫瘍摘出術	K005 K006	29	1	15	7	6	3
神経剥離手術	K188	16		2	8	6	4
陥入爪手術	K091	20			9	11	2
体外衝撃波疼痛治療術 (自費診療分含む)	K096-2	105			29	76	143
その他		35		6	10	19	14
		788	35	225	256	272	412